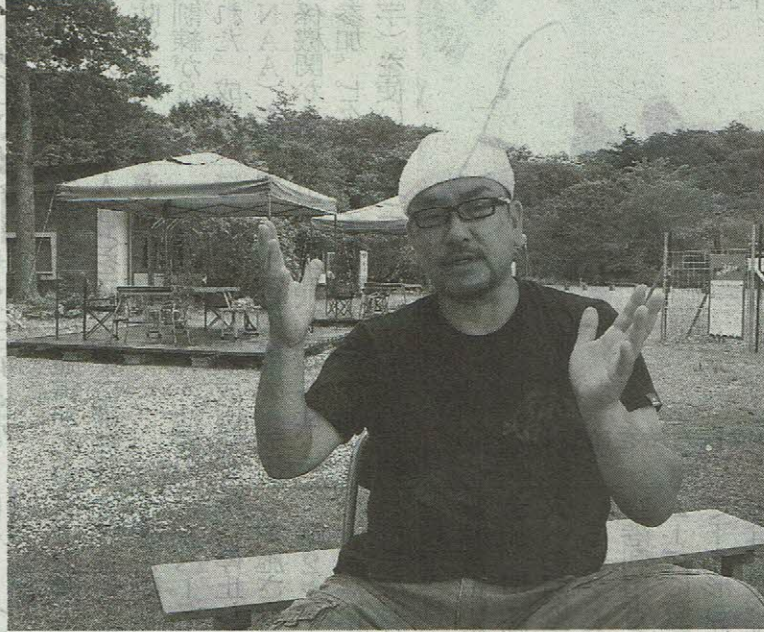


廃校再生し鳥獣対策

君津 原田祐介さん(46)

房総移住ブタ屋

2



趣味が高じて立ち上げた「猟師工房」の代表として、ジビエや工芸品の販売、若手猟師の育成などに情熱を注ぐ。6月、埼玉県飯能市から君津市香木原へ。廃校後30年以上たつ小学校跡を再生し、拠点とした。

「世の中の困り事をアラスに転じたい。有害鳥獣、廃校、少子高齢化…。地域活性化の新たな在り方を提示できたと思う」

増え続けるイノシシ、シカなどの被害に悩む市が、廃校の有効活用と鳥獣被害対策をテーマに民間事業者を公募。名乗りを上げたTSJ(奈良市)の役員を務

ジビエパーベキュー場やソロキャンプ場などを整備した旧香木原小学校の校庭で、狩猟ビジネスについて語る原田さん(君津市)

ジビエ販売や猟師育成

める。捕獲から加工、販売までのノウハウを持ち、獣肉処理施設の運営委託や狩猟ビジネス学校を請け負うなど実績があった。

今夏オープンした店舗「猟師工房ランド」には、市内で捕獲されたシカやイノシシの肉をはじめ、雑貨類がずらり。校庭にはジビエパーベキュー場やソロキャンプ場、ドッグランを整備した。

外資系アパレル企業に勤務し、唯一の趣味が狩猟だった。40歳で転身し、狩猟ビジネスを全国展開する。

「捕獲しても数パーセントしか流通に乗せられず、捨てられている現状がある。焼く顔を輝かせた。



7月にオープンした「猟師工房ランド」。店内には、狩猟をテーマにした工芸品が並ぶ

命を奪う以上、すべてを利活用しなければ…」豊かな自然に囲まれ、店舗から歩いて約3分の古民家を借りて妻と2人暮らし。一星はきれいだし、真夏でも夜はエアコンがいら

ない。不便なことは、街に飲みに行くと泊まりがけになることくらいかな」と日